

表1 学生の実習姿勢の自己評価(平均値データ)

設問項目	H29年度		H28年度		昨年度との差 H29-H28平均
	17期生(n=36)	SD	16期生(n=39)	SD	
問1 オリエンテーションの内容を十分に理解して実習を始めた	3.92	0.02	4.03	0.07	(0.11)
問2 共通分野の科目内容を活用しながら実習を展開した	3.96	0.15	3.85	0.22	0.11
問3 専門分野の科目内容を活用しながら実習を展開した	4.05	0.11	3.78	0.18	0.27
問4 対象者と適切な関係を築きながら実習を展開した	4.29	0.07	4.19	0.25	0.10
学生の姿勢 平均	4.05	0.09	3.96	0.18	0.09

表2 学生の実習に対する評価(平均値データ)

設問項目	17期生(n=36)		16期生(n=39)		昨年度との差 H29-H28平均	
	平均	SD	平均	SD		
実習に対する評価	問5 指導者は必要に応じて助言・指導・説明などを行った	4.33	0.16	4.40	0.08	(0.07)
	問6 指導者の説明は具体的でわかりやすかった	4.31	0.15	4.28	0.16	0.03
	問7 指導者は学生が困っているときに適切に対応してくれた	4.35	0.20	4.30	0.06	0.05
	問8 指導者は学生のあなたにあわせて指導した	4.37	0.21	4.34	0.16	0.03
	問9 指導者は学生を一人の人間として尊重した	4.40	0.17	4.51	0.07	(0.11)
	問10 指導者は自分が考えに基づいて行動することを尊重した	4.40	0.20	4.42	0.27	(0.02)
	問11 指導者の学生に対する質問の量は適切だった	4.39	0.13	4.28	0.04	0.11
	問12 指導者が学生に期待する行動は適切だった	4.31	0.17	4.11	0.15	0.20
	問13 教員と指導者の連携がよくとれていた	4.23	0.14	4.07	0.19	0.16
	問14 教員と指導者の指導に一貫性があった	4.22	0.18	4.08	0.33	0.14
	問15 実習の目的・目標と実習の内容や方法は合っていた	4.24	0.18	4.25	0.18	(0.01)
	問16 実習の課題等の量は適切であった	4.22	0.15	4.26	0.10	(0.04)
	問17 記録物や提出物に対して適切な指導・助言があった	4.27	0.23	4.36	0.04	(0.09)
	問18 指導者と学生間のコミュニケーションは良かった	4.28	0.17	4.17	0.14	0.11
	問19 ハラスマントに対する配慮がなされていた	4.40	0.20	4.31	0.11	0.09
	問20 今回の実習は総合的にみて良かった。	4.28	0.16	4.31	0.11	(0.03)
	実習に対する評価 平均	4.31	0.18	4.28	0.14	0.03

平成29年度(17期生) 実習評価集計結果

I. 実習評価集計について

短期・長期Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの各実習終了後、調査用紙を用いて無記名によるアンケート調査を実施。調査用紙は、学生の姿勢(問1~4)、実習評価(問5~19)、総合評価(問20)から構成され、5段階評定を用いている。それぞれの実習時期別に平均値を集計する方法で実施した。

II. 集計結果

1. 実習評価実施状況

実施施設数: 短期 (PT: 25施設 OT: 15施設)
 長期Ⅰ期(PT: 24施設 OT: 13施設)
 長期Ⅱ期(PT: 24施設 OT: 15施設)
 長期Ⅲ期(PT: 24施設 OT: 14施設)

実施率 : 短期 100% 長期Ⅰ期 100% 長期Ⅱ期 100% 長期Ⅲ期 100%

回収率 : 短期 100% 長期Ⅰ期 100% 長期Ⅱ期 100% 長期Ⅲ期 100%

2. 学生による「実習評価」結果

1) 学生の実習姿勢に関する自己評価(平均値データ) (表1)

学生の実習姿勢で自己評価が高かったのは、「問4 対象者と適切な関係を築きながら実習を展開した」(4.29 ± 0.07)であった。評価が低かったのは、「問1 オリエンテーションの内容を十分に理解して実習を始めた」(3.92 ± 0.02)であった。

2) 学生の実習に対する評価(平均値データ) (表2)

総合的な評価の問20を除いた15項目中上位3項目は、「問9 指導者は学生を一人の人間として尊重した」(4.40 ± 0.17)、「問10 指導者は自分が考えに基づいて行動することを尊重した」(4.40 ± 0.20)、「問19 ハラスマントに対する配慮がなされていた」(4.40 ± 0.20)、であった。下位3項目は、「問14 教員と指導者の指導に一貫性があった」(4.22 ± 0.18)、「問16 実習の課題等の量は適切であった」(4.22 ± 0.15)、「問13 教員と指導者の連携がよくとれていた」(4.23 ± 0.14)、であった。

III. 分析・対策

1) 学生の実習姿勢に関する自己評価

「問4 対象者と適切な関係を築きながら実習を展開した」の項目において、自己評価が高い結果となつた。例年この項目が高い値を示す傾向にあり、臨床実習において学生が最も重要視していることがうかがえる。本学院では、実践型教育を重んじており、その経験が活かされた結果ではないかと捉えている。理学・作業療法士にとって、対象者を尊重し、関係性を構築していくことは、何よりも大切なことであり、そこに学生の意識が向いていきたいと考えている。「問2 共通分野の科目内容を活用しながら実習を展開した」、「問3 専門分野の科目内容を活用しながら実習を展開した」の項目においても高い値を示している。これは、臨床実習において学生が、共通あるいは専門的な知識や技術の重要性を認識したうえで、臨床実習に臨んだ結果であり、臨床実習中にも、自己の知識・技術の研鑽に努力した成果であると考えられる。常々学内教育で学んだ知識・技術を、臨床の場で活用する術について、実演をはじめて重点的に指導しており、その効果が良い形であらわれていると捉えている。特に学生の意識は、専門分野で学んだ内容を活用して臨床実習に取り組んできたようである。学内教育の活用に向けた日々の教員からの指導・意識付けが、功を奏したものと考えられ、今後も更なる向上にむけ指導をしていく。

「問1 オリエンテーションの内容を十分に理解して実習を始めた」の項目は、昨年度より低い値を示しており、担任を中心としたオリエンテーションの徹底をはかる。

2) 学生の実習に対する評価

総合評価を含め、すべての項目が4点以上であり、全般的に高水準であった。特に、学生の人間性の尊重、あるいは学生の考え方や行動の尊重(問9・10)の項目が高い値を示しており、臨床実習指導者がたえず学生に対して配慮を行ってもらった結果であると捉えている。学生は、指導者から示される肯定的な言動(認められているという感覚)によってモチベーションを高めやすい。本学院では、学生の個別性を考慮した臨床実習指導を指導者に依頼しており、臨床実習指導者にも理解をしていただいているため、今年度も学生の自己評価得点が高かったと捉えている。各指導者には、今後も学生の個別性を尊重した適切な指導を求める。

H29年度臨床実習指導者会議の中で、臨床実習指導者各位と教員をはじめたグループ研修会を行った。その場で、臨床実習に対する指導者側と教員側の意見交換が行われ、今まで以上に臨床実習に対する教員・指導者間の情報共有が密になってきた。そのため、今年度の実習では、指導者と教員間の連携、指導上の一貫性がはかられてきており、「問13 教員と指導者の連携がよくとれていた」、「問14 教員と指導者の指導に一貫性があった」の項目が、昨年度以上に高い得点を示したものと考えられる。H30年度の臨床実習指導者会議でも、教員・指導者間によるグループワーク(臨床実習の到達度の検討等)の機会を設けており、指導者と教員間が連携して、より良い臨床実習を追求していく。

「問16 実習の課題等の量は適切であった」という項目において、他の項目より低い値を示している。学生は、実習中の課題に過度の負担感をいだきやすい傾向にあり、学生の状況に応じた課題量となるよう臨床実習指導者に求める。